

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
112	川崎市立片平小学校	紀 裕子

学校教育目標 仲よく語り合い協力し合う 豊かな人間性を育む教育 ○学び続ける子 ○考えて実行する子 ○やさしくたくましい子	今年度の重点目標 創立40周年を生きし「主体性」「協働する力」を育てる ・確かな学力の育成 ・子どもと共に築く学校 ・豊かな心の育成 ・健やかな身体の育成 ・開かれた学校づくり ・安心・安全な学校づくり ・教職員の資質向上
---	---

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力の育成	・発表の機会を生かした、表現力の育成 ・楽しくわかる授業の実践 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得 ・言語活動を通し主体的・対話的で深い学びの実践	・3年目となる国語の校内研究と式典の発表により、言語活動、表現活動がより活性化した。ギガ端末も効果的に活用してわかりやすい授業が成り立つ反面、児童の間違った使い方について指導することもあった。・専科指導、少人数指導、取り出し、入り込み指導を計画的に行えるよう努めた。	・学年の協力体制をさらに充実させ授業改善の意識を高める。学年内の交換授業の推進を図る。地域や保護者に協力を仰いだり、ゲストティーチャー、教育サポーター、ボランティアの活用や連携を図ったりしていく。ギガ端末活用では、情報モラル教育を児童に継続して行っていく。
2 子どもと共に築く学校	・子ども一人ひとりの活躍の場の確保 ・児童が主体的に活動できる場の充実	・周年行事に関連して子どもたちが主体的に考え協働する力を育てていくことを目指して教育活動を行った。・運動会、40周年式典に向けて、児童会での話し合いを深め、子どもたちの意見を反映した行事の実施ができた。	・行事や異学年交流については、教育効果を考え内容を精選していく。・40周年へ向けて高まった児童の意識を片平小の伝統として来年度以降の児童会にしっかりと引き継ぐ。
3 豊かな心の育成	・人権教育週間の設定、道徳教育の充実 ・自己肯定感、自尊感情の向上推進 ・効果測、かわさき共生＊共育プログラムの実施 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・児童支援CO.を核とした組織的な児童支援体制の取組	・支援教育CO.を中心に、打ち合わせや職員会議での報告、ケース会議の充実などを徹底し、学年間の共通理解を図りながら、迅速に全職員で対応した。・生活アンケートを定期的実施しフィードバックして、児童支援に生かすことができた。・不登校傾向のある児童に寄り添った対応に努めた。	・ますます多様化する児童や保護者の悩みに寄り添い支援教育CO.を中心に丁寧な対応を継続していくとともに、さまざまな外部機関を活用しながら、適切な支援を探っていく。・キャリアノートの活用、引継ぎについて職員研修を徹底し、年間の取り組みを計画的に実践していく。
4 健やかな身体の育成	・休み時間等の日常的な運動の推奨 ・学級活動や体育科による健康や食に関する指導 ・校庭開放による運動機会の拡大 ・手洗い、換気の徹底による感染症の蔓延防止	・専科指導により、体育学習を充実させ身体を動かすことの楽しさを味わわせるよう努めた。 ・休み時間に管理職や教職員が校庭で見守り体力向上を図った。・スポーツ委員会がさまざまな企画を考え実施した。・養護教諭、栄養職員が積極的に教室で指導を行った。	・児童会の企画に頼ることなく、日常的に皆が外に出て行える活動をバランスよく取り入れていく。・児童に運動する楽しさ大切さを折に触れ伝えていく。・栄養職員と養護教諭と学年が連携を取りながら継続して食育などを推進していく。
5 開かれた学校づくり	・40周年実行委員会の活動の充実 ・学年、学校だより、HP等による学校教育活動の積極的な情報配信 ・副読本作りと関連した地域教育や地域素材の有効活用 ・学校運営協議会、学校評価の活用	・式典では地域の方々に多数ご来校いただき、今の片平小学校を知ってもらい良い機会になった。・学年、学校だよりやHPを通して、地域や保護者に教育活動の様子を積極的に発信することができた。・周年行事、授業参観、個人面談、メール配信などに力を入れ、保護者に学校の様子を公開し、学校への理解につなげた。	・学校説明会、報告会の配信等のよさも見えてきたので、よりわかりやすく内容を精選し工夫する。 ・40周年で深まった児童と地域との絆をよい契機として、地域と学校のより協力的な関係を構築したい。 ・ペーパーレス化、情報伝達加速化などを目的に、学校だよりと学年だよりを一括し、配信とする。
6 安心・安全な学校づくり	・避難訓練や防犯・防災教育への取組 ・通学路の安全点検、登下校指導による児童安全対策の強化 ・PTA、町内会、自治会との連携	・朝会、学級活動の中で、スクールガードリーダー、スクールサポーターや校長、児童支援CO.から交通安全指導を何度も行った。・避難訓練を通して「自分の命は自分で守る」ことを繰り返し徹底した。・避難所運営会議を夜間に開催し、暗い中での開室準備の訓練をした。	・登下校の安全や有事の際の避難について通学路の映像を作るなど、繰り返し指導していく。・PTAを中心とした保護者の協力をお願いする。・外部講師の活用を図り、情報モラル教育や交通安全教育などを継続して行う。
7 教職員の資質向上	・児童理解、児童指導に関する研修の充実 ・授業改善に向けた授業研究会の充実 ・教職員の不祥事防止に関する研修の充実	・校内研究では国語科を中心に、「他者意識をもって、関わり合いながら学びを深める言語活動の充実」を目指して授業研究をすすめた。・多様性の理解や児童支援、不祥事防止の研修を行った。・周年行事に皆で取り組み、地域との関わり方、教科に関連した表現活動の工夫を教師が学ぶことができた。	・ますます増える若手教員を中心に丁寧な保護者対応など支援教育についての理解をすすめる。・教員が互いの強みや専門性を遺憾なく発揮し学びあえる機会を増やす。・働き方改革をふまえながら、業務の精選と質の良い授業を目指す。

学校関係者の評価 ・40周年行事に児童が主体的に関わったことで、生きる力、協働する力がついてきていると思う。児童会の代表の発表が立派で、ギガ端末も駆使していて感心した。・校内参観では、学校生活を楽しみ意欲的に活動していることが伝わった。いじめ防止標語が校内にたくさんはってあり、感銘を受けた。保護者にもぜひ見てほしい。・教員不足の悩みを聞くにつけ、児童の豊かな学びのためには、地域や保護者も協力していきたいと思う。・児童たちのあいさつがすばらしい。町でも遠慮せず、あいさつしたいと思う。	学校運営のまとめ ・学校関係者のご意見や保護や児童、教職員へのアンケート結果から、今年度の教育活動について「主体性・協働」の力が育ってきていると評価していただいた。40周年行事を通して、児童と教職員の団結力が強まり、また地域とのつながりも復活できた。今後も良い伝統として引き継いでいきたい。・「国語科」の研究を通して他者意識をもって人と関わり、豊かな言語活動が行えることを目指してきた。来年度も、教員どうし切磋琢磨して研修を積むとともに、児童にはさまざまな経験を通して、社会の中で自分を表現できる力の基礎を養い、自己肯定感につなげたい。・管理職が教職員の声に耳を傾け、よりよい教育活動について皆で最善策を探るよう努めるとともに、働き方改革を意識しながら教職員のウエルビーイングも大切に学校運営に努めたい。
--	---